

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		わんぱくキッズ				公表日	2025 年 2 月 1 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	90	10	・天気の良い日は歩いて気分転換を兼ねて途中から歩いて帰ってくる人、おやつ後公園で遊ぶ人、と室内が混雑しない工夫をしている。	・利用が集中しないように工夫する。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100	0	・直接的な支援が必要な人、間接的な支援が必要な人に分けて、その日の利用状況によって職員配置を工夫している。	・聴覚過敏がある人が孤立しやすいので、気を付ける。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100	0	・玄関前階段に手すりをつけ、手すりにゴムを付けて滑らないようにしている	・一人一人の階段の上がり方に余裕を持つこと	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	90	10	・活動前後の清掃や消毒を行い、記録に残している。	・和室の障子について危ないという意見があるが、完全に遮光してしまうこととの関係性が難しい。今のところ事故はない。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100	0	・聴覚過敏や一人になりたい人は別室で落ち着けるようになっている。	・使用したい人が重なった場合に優先順位などの配慮。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100	0	・活動前に打ち合わせ、終了後は個人記録に記入し、活動後正職員で反省を行う。その結果を次の日の打ち合わせに報告する。	・職員は活動前に記録を読む。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100	0	・ご意見は職員会議で発表し、職員に周知する。	・ご意見は検討し、可能であればすぐに修正する。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100	0	・職員会議、打ち合わせ、ケース会議等の他、気が付いたことがあればいつでも意見は受け入れている。	・口頭でも文書でも意見は可能。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	80	20	・日本非営利組織評価センターにおける「ベーシックカバレッジチェック」において全ての項目で「基準を満たしている」の評価だった。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100	0	・虐待研修、感染症研修は全員、他に正職員は外部研修を行っている。	・人手不足の折り、時間帯によっては受けたい研修に行かないこともある。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100	0	・支援プログラムは7月に作成済。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100	0	・保護者とのモニタリング、相談支援事業所との情報交換を経てケース会議等で一人一人の状況を客観的に分析し、支援計画を作成している。	・タイミングが前後することがあるが、必要な工程は必ず行い、記録に残している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100	0	・こどもの情報は職員全員で共通理解し、必要な支援が適切に行われるように工夫している。	・職員会議等に参加できなかった職員へ配慮している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100	0	・職員には周知している。	・紙媒体だけでは伝わらないところがある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100	0	・1年に1回、標準化されたツールを使用し、アセスメントしている。	・集計に手間がかかる	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100	0	・設定されている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100	0	・職員全員に投げかけているが、常勤職員が最近の様子を考慮して一人一人への提供内容を決める。	・発達年齢や身体的配慮が異なるこどもへの活動プログラムは難しいので、一人一人のかかわり方を工夫する必要がある。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100	0	・いろいろな情報を仕入れて、考えている	・その日の利用者の発達年齢によって、慣れた活動でないといけない場合がある。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100	0	・集団活動で行うが、目標、ねらいは個別で違っている	・支援する職員が担当のこどもの目標や狙いを正しく把握しているかの確認を行う。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100	0	・行っている	・日によって職員も利用者も違うので、大変複雑である。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100	0	・職員の終了時間がまちまちであるため、終了後の打ち合わせはできないが、反省や課題、様子を記録に残し翌日に生かしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100	0	・反省や課題、様子は必ず記録に残している。	・簡潔な文章、わかりやすい適切な文章は難しいこともあり、口頭で引き継ぐこともある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100	0	・最低でも6か月に1度は行うが、必要であれば相談を行い、見直しを行う。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100	80	・行っている。特に専門的支援についてはどの領域の発達を狙いとするのかをはっきりさせている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100	0	・選択の機会があれば必ずこどもに聞き、選んでもらう。普段から「選ぶ」ことを大切に、選択する力をつけていく活動を取り入れている。	・選択が難しいこどもに対しての支援の方法を考えていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100	0	・会議までは行かないが、電話で情報交換したり、意見を伺ったりしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	90	10	・発作のあるこどもに関しては連携をとって迅速な処置ができるようにしている。 ・学校での引継ぎ時にその日のこどもの様子をお聞きして活動の参考にする。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100	0	・学校との情報共有については保護者を通して、連絡調整については直接的に学校と行っている。	・学校の電話終了時間が早く、確認が翌日になってしまうことがある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100	0	・今年度の1年生は通っていた保育園に直接行き、担任の先生に注意点等のお話を伺った。（関係機関調整）	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	90	10	・該当なし	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	50	50	・行っていないが、児童発達支援管理責任者が直接センターと連携をとり助言や意見を頂いている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	90	10	・ハロウィン時に交流した。	・コロナ以降、まだ積極的な交流をしていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100	0	・時間的に可能であれば参加している	・人手不足があり、参加が難しいこともある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100	0	・お迎え時に機会があるので、その都度話している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100	0	・家族向け研修のプリントを掲示したり、ペアレントトレーニングを6月に行った。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100	0	・契約時には説明を行い、質問の有無を確認した。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100	0	・お子さんの面談も順次行っている。小さなこどもでもご希望をかなえられるように心がけている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100	0	・保護者の方に説明後もう一度持ち帰り、検討していただいた上でサインをお願いしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100	0	・保護者の悩みについてはいろいろな情報や方法、考え方について助言し、前向きに考えられるように励ましている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100	0	・保護者会は6月に開催した。きょうだい同士の交流については特別行っていないが、夏まつりは参加自由としている。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100	0	・苦情は保護者の方の希望、要望を受け止めて、迅速に対応したい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100	0	・1ヶ月に1度以上はおたよりを発行している。わんぱくクラブとしても1年に1度は法人全体の理解を得るために通信を配布している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100	0	・職員全員で留意している。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100	0	・常にアンテナを張って必要な情報収集ができるように、色々な情報から正しい理解ができるように配慮している。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	80	20	・コロナ以降は行っていない。地域のボランティアや介護等体験の学生は社会福祉協議会を通して受け入れている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100	0	・各種マニュアルはご家庭に配布している。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100	0	・1ヶ月に1度は避難訓練を行っている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100	0	・毎年4月に児童票を提出していただき、その中に詳しく子どもの情報を記入していただいている。発作が起きたときの対応については面談等で詳しくお聞きし、対応できるようにしている。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100	0	・現在は重篤なアレルギーの利用者はいない。（生の果物など施設では口にしないものがアレルギーの方はいる）
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100	0	・安全計画を作成し、水害等や避難を必要とする場合の対応等について周知している。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100	0	・安全に対するマニュアルを配布している
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100	0	・ヒヤリハットは記入後全職員と共有し、原因と改善点について確認し合う。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100	0	・虐待チェックリストを1年に2回行い、全職員で気を付けている。また、虐待研修は全職員に義務付けられている。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100	0	・やむを得ず身体拘束する場合について、支援計画に乗せて保護者の了解を得ている。原則を守り配慮して行うこととしている。	